斎藤 伊右ェ門《箕と篩》1959（昭和 34）年　紙に水彩　個人蔵

土井 栄《十六羅漢》1945（昭和 20）年　キャンバスに油彩
山形県立酒田東高等学校蔵

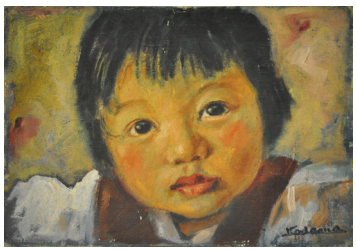
第二次世界大戦は日本の近代美術史においても大きな転換期となり、戦前と戦後の美術という括りをつくり出しました。絵画制作や美術雑誌の出版といった活動が、戦況の悪化によって徐々に制限されていくなかで、それでも、絵を描くことに希望を持ち、戦後へと美術の歴史を繋いでいった画家たちがいたことを忘れてはなりません。

庄内地域の芸術文化の歴史をたどり、郷土ゆかりの作家を紹介する「庄内の美術家たち」展、シリーズ第 8 回となる本展覧会では、「戦後へ、受け継がれる洋画のおもい」と題して、戦争を乗り越え、なお美術に対する熱意を持って、その振興と自らの制作に打ち込んだ庄内の洋画家たちに迫ります。

このシリーズでは過去 2 回にわたり、鶴岡中学校（現 鶴岡南高等学校）の在学生によって 1924（大正 13）年に創立された美術団体白甕社（創立時は白虹社）の活動を取り上げてきました。今回はとくに昭和 10 年代後半から終戦直後に、白甕社展覧会に出品していた人々に焦点を絞り、彼らの画業を追います。その核となるのは、中央画壇に身を置きながらも戦後帰郷し、白甕社の中心人物として庄内の美術界を先導していった今井繁三郎（1910–2002）です。また、白甕社展覧会を出発点として美術の世界に身を投じ、それぞれの道を切り拓いていった木村儀三郎（1914–1978）、土井栄（1916–1976）、斎藤伊右ェ門（1922–2006）の 3 人を加え、あわせて洋画作品約 40 点と関連資料を展覧します。

さらに、今回は特別展示として、当時の白甕社で活動し、その運営と発展に務めた児玉充弘（1904–1981）、佐藤忠一（1916–2006）、横山鉱一（1920–1975）の希少な作品も紹介します。

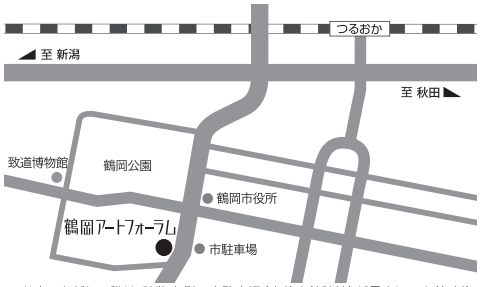
木村 儀三郎《初冬風景》1971（昭和 46）年　キャンバスに油彩
公益財団法人致道博物館蔵



ギャラリートーク

学芸員による作品解説を行います。
2 月 16 日（土）、2 月 23 日（土）各回 14:00 ～ 15:00
申込不要、会場へ直接お越し下さい。（観覧券が必要です。）

（左上）児玉 充弘《娘っこ》1942（昭和 17）年　紙ボードに油彩　個人蔵
（左下）佐藤 忠一《東京に大雪が降った日》1986（昭和 61）年　紙にクレヨン
公益財団法人致道博物館蔵
（ 右 ）横山 鉱一《庄内娘》1965（昭和 40）年　キャンバスに油彩　常念寺蔵



※お車でお越しの際は、建物東側の市駐車場（市体育館跡地）が最寄りです（無料）。

鶴岡アートフォーラム
〒997-0035　山形県鶴岡市馬場町13-3
TEL：0235-29-0260（代表）FAX：0235-22-6051
E-mail：info@t-artforum.net URL：http://www.t-artforum.net